

令和元年度厚生労働科学研究費補助金  
(成育疾患克服等次世代育成基盤研究(健やか次世代育成総合研究)事業)  
わが国の至適なチャイルド・デス・レビュー制度を確立するための研究  
(主任研究者 沼口 敦)

分担研究 地域における厚労省 CDR モデル事業の実施体制と支援体制の開発  
「東京都における Child Death Review 実施への取り組み」

分担研究者	小保内 俊雅	多摩北部医療センター小児科
研究協力者	内山 健太郎	賛育会病院
	内田 佳子	国立成育医療研究センター
	杉浦 健太	都立小児総合医療センター
	小川 優一	都立小児総合医療センター

研究要旨

【背景】東京都で Child Death Review (CDR) を導入するための課題と解決方法を明らかにする必要がある。

【方法】CDRTokyo (CDRT) という会議体のコアメンバーを形成した。多職種間で顔の見える関係を作ることとを目的に、会議を開催し、その都度課題の抽出と、その解決方法の実施について検討を継続した。

【結果】計 9 回の会議を開催した。

【結論】都内医科 13 大学の小児科学教室、法医学教室、東京都医師会、監察医務院、の同意をえた CDRT タスクフォースの結成は、今後東京都に CDR を導入する大きな原動力になると思われる。2 回開催した多職種向け勉強会でも、CDR に関する関心の高さが伺われた。ここで行った個別検証、概観検証それぞれの模擬検証の評価も高かった。これをブラッシュアップして、動画共有等を行うことで多職種の理解の促進が期待できる。引き続き多職種勉強会を継続し、今後は医療者向けの勉強会の開催も検討していきたい。

A. 研究目的

今後東京都で CDR 体制を導入するために、どのような課題があり、それを解決していく方法を明らかにすることを目的とした。

B. 研究方法

2018 年 5 月 18 日に小児死亡事例に関する登録・

検証システムの確立に向けた実現可能性の検証に関する全国版後方視的調査(2014-2016 年)に参加して頂いた都内小児科医療機関に対して、今後東京都に CDR を導入するための説明会を開催した。9 月 27 日に小保内、森崎、内山の 3 名で、今後東京都でどのように導入するかの会議を開催し、「まず出来るだけ関係機関に集まってもらい、顔の見

える関係を作り、今後どのような方向にして行くのか、何が出来るのかを各機関から意見を募る。」これを目的とした CDR 検証会議を開催するという目標を共有した。この開催のための準備団体として、都立小児医療センター小川医師、成育医療研究センター内田医師をリクルートし、小保内医師、内田医師、小川医師、内山の 4 名で CDRTokyo (CDRT) という会議体のコアメンバーを形成した。

多職種間で顔の見える関係を作ることを目的に、会議を開催し、その都度課題の抽出と、その解決方法の実施について検討を継続した。

### C. 研究結果

2019 年 6 月 13 日 CDR 導入に向けたコアメンバー会議

個別検証を行い、収集し概観検証を行う二層構造での CDR 体制の導入を目標として、概観検証体制、個別検証体制を二本立てとして進めていく方針を共有。まずはそれぞれの第一回の会合を開く」  
1) これを目標に開催を試みる中で、課題の抽出を行う方針として、仮目標として以下の 2 点を掲げた。

概観検証体制：2020 年 3 月に東京都庁で保健福祉局と一緒に概観検証を行う

個別検証体制：2019 年度中に、成育と都立でまずは 1 例ずつ、小児死亡事例を、行政・医療・警察・教育・その他を含めた多機関で検証する。

のスモールステップとして、10 月に成育医療研究センターで多職種向けの CDR 勉強会の開催と、東京都福祉保健局に CDR 実施の申し入れを行うこととした。

2019 年 7 月 22 日 東京都福祉保健局に CDR 実施に関して申し入れ

成育基本法が CDR の実施を地方公共団体に求め

ていることから、いずれ実施しなくてはならないとの認識、および事業自体の必要性を認識していることは示されたが、基本法は理念を示しているだけで、実際が不明であり行政として参加は困難であるとの回答をえた。

2019 年 8 月 22 日 第一回多職種による CDR 実装に向けた検討会

CDR に関与する医療関係者以外の多職種に CDR を啓発する目的で、多職種勉強会を企画。福祉保健局、児童相談所の方々にご参加頂いて、10/31 に成育医療研究センターで実施する多職種向けの CDR 勉強会についての検討をおこなった。このときに参加者拡大のために東京都医師会に相談することを示唆された。

2019 年 9 月 06 日 東京都医師会と懇親会

8 月の会で示唆されたため、東京都医師会と CDR の実施に向けて協議をもった。

CDR が東京都の事業となった際に、カウンターパートとして実行できる組織を構築しておく必要性、その組織は都内医科系 13 大学の同意とそこからの代表者によるタスクフォースの構成の必要性を提示された。

2019 年 10 月 31 日 第一回多職種向け勉強会開催  
成育医療研究センターにて

医療者を除く CDR に関与する多職種を対象に、模擬個別検証会議の紹介を含めた実践的な勉強会を開催した。参加者に対するアンケート調査では、90%を超える参加者が CDR の内容を知らないと答えており、今後 CDR 実装に向けて勉強会を繰り返し実施する必要性が明らかになった。

2019 年 11 月 27 日 こどもの死亡登録検証制度実

#### 施準備会議の開催

都内医科系 13 大学、成育医療センター、都立小児総合医療センター、東京都医師会及び東京都監察医務院の法医学と小児系代表者による会議を開催した。本会議において、CDRT タスクフォースの設置とタスクフォースメンバーの選定が全会一致で承認された。タスクフォースメンバーは、法医学系は都区内と多摩地区及び監察医務院からそれぞれ一人、小児系は東京都こども救命事業による地域区分を基礎に、東大、日大板橋、成育医療研究センター、都立小児総合医療センター及び東京都医師会から参加することとなった。

#### 2019 年 12 月 09 日 第二回多職種による CDR 実装に向けた検討会

10 月 31 日の成育医療センターでの勉強会を受けて、1 月 17 日に第二回多職種向け勉強会について検討を行った。前回は模擬個別検証のみであったため、模擬概観検証も紹介する方針とした。

#### 2020 年 1 月 17 日 第 2 回多職種勉強会開催

2019 年 10 月 31 日に開催した会に参加出来なかった職種に勉強の機会を提供した。前回実施した模擬個別検証に加えて模擬概観検証も実施した。NHK の取材も入り、世間の関心の高さも伺えた。

#### 2020 年 1 月 30 日 第 1 回 CDRT タスクフォース会議

東京都が CDR 実施を決めた時に、CDRT タスクフォースが中核となって事業を推進するための会議を開催。杏林大学法医学教室、監察医務院、東大小児科、日大板橋小児科、成育医療研究センター救急診療科、都立小児総合医療センター救急診療科、東京都医師会より参加。東京都に CDR を導入するための活動を、2021 年度の東京都の事業とし

て予算を獲得する方針が共有され、その活動内容を詰めていく方針とした。

また東京都で行われている死因究明会議とも連携をとり死因究明の質の向上のために CDR がどう役割を果たせるかを確認していくこと、都内の小児死亡数の現状を把握していくことについても話された。

## D. 考察

6月のコアメンバー会議で共有した、まずは個別検証と概観検証それぞれの「まずは第一回の会合を開く」1) この目標は未だ達成されてはいないものの、都内医科13大学の小児科学教室、法医学教室、東京都医師会、監察医務院、の同意をえたCDRTタスクフォースの結成は、今後東京都にCDRを導入する大きな原動力になると思われる。

2回開催した多職種向け勉強会でも、CDRに関する関心の高さが伺われた。ここで行った個別検証、概観検証それぞれの模擬検証の評価も高かった。これをブラッシュアップして、動画共有等を行うことで多職種の理解の促進が期待できる。引き続き多職種勉強会を継続し、今後は医療者向けの勉強会の開催も検討していきたい。

現時点ではCDRTタスクフォースで何をなすかの方針は検討段階ではあるが、当初の目標の、概観検証を多職種で開催する、個別検証を成育と都立でまずは1例ずつでも行ってみる、これを再度掲げて行くことを再検討したい。溝口班の成果でも、2019年2月3日に開催された国際シンポジウム「チャイルド・デス・レビュー 一命に学び、命を守る-」においても、まずは多職種で顔を合わせることで生まれる原動力の大きさが強調されている。まずは一度会合を実際に行うことで、多職種で顔の見える関係の構築が期待できる。そして「CDRを実際に実施するためのプロセス」2)を一緒に検討することが、次の具体的な課題と解決策を抽出してくれることが期待できる。

## E. 結論

CDRTタスクフォースを使って、概観検証会議、個別検証会議の実現を模索することが有効と思われる。

## 参考文献

1. CDRを地域で社会実装するための準備読本- 第一歩を踏み出すために- p92
2. CDRを地域で社会実装するための準備読本- 第一歩を踏み出すために- p93

## F. 健康危険情報

(特になし)

## G. 研究発表

論文発表  
学会発表  
書籍発刊

## H. 知的財産権の出願・登録状況

(特になし)